

古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域に関する研究

- 『おもろさうし』による古地名の現在地比定を通して -

【序論】

研究目的

地名は、土地につけられた呼称であり、地名の存在は、その土地を認識する社会的集団があつて初めて成立するものである。古くから存在する地名は、その土地が様々な社会的な変容の中にさらされても、人々に受け継がれ現在においても残っている事が多い。

庄子幸佑『地名からみた現代日本に於ける古代社会の影響に関する研究』¹では、『倭名類聚抄』という文献にみられる地名を対象とし、北海道・青森・沖縄を除く日本本土の古代社会の影響をみる事が出来る現在の集落地域を抽出した。

本研究では、『倭名類聚抄』によって確認する事が出来なかった地域である沖縄を対象として、古地名の現在地比定により、古代社会と現代の社会との空間的な連続性をみるという手法を用いる。そのうえで、

①古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域の抽出という行為を通して、地名を用いて、古代社会を現在の社会の中に捉える手法が沖縄という地域においても適用される事を示す。

②それを踏まえて行う事が出来る研究の方向性の足掛かりとして、古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域の分析を行う。

以上の2点を本研究の目的とする。

研究方法

本研究では、沖縄において、古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域を抽出し、分析をおこなう事を目的とする。本論文のおおまかな流れとしては、まず、沖縄の地名の変遷の既往研究からの分析、地名の抽出のおおもとの文献である『おもろさうし』に関する分析を行い、古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域を抽出する方法論の定義付けを行う。その上で、定義を行った集落地域の抽出を行い、それらを地図上にプロット・可視化したものを作成する。最後に、プロット地図を用いて、古琉球²と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域の立地傾向についての分析を行う。

第1章では、沖縄の地名とそれを取り巻く社会背景の変遷を古琉球期から現代にかけて、時系列で整理し、古琉球時代の基本的集落単位であつたシマと現在の行政区画としての字の関係を明らかにする。第2章では、『おもろさうし』に関する既往研究の分析から、古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域という概念の定義付けを行う。第3章では、1章・2章を踏まえて、古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域の手法を提案し、それら地域の抽出を行い、それらを可視化した地図を作製する。第4章では、作成した地図を用いて、古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域に関する立地傾向に関する考察を行う。

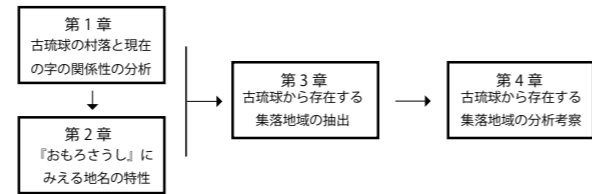


図1 本論文の構成ダイアグラム

【本論】

第1章 地名研究から見る古琉球社会と現代の社会の空間的な連続性

第1章では、沖縄における地名の既往研究を整理し、古琉球の社会と現代社会にどのような空間的な連続性が存在しているのかを確認した。古琉球期・近世・近代・現代の沖縄における地名の変遷を概観した結果、古琉球期における、人々の共同生活の最小単位としての村落(シマ)が、近世における薩摩藩の支配下における改変期により村となり、近代の土地整理事業を経て、現在の行政区画としての字を形成している事を確認した。以上の事を踏まえて、古琉球期の村落名を引き継ぐ字の範囲は、村落地域を包含する形で存在しているとした。

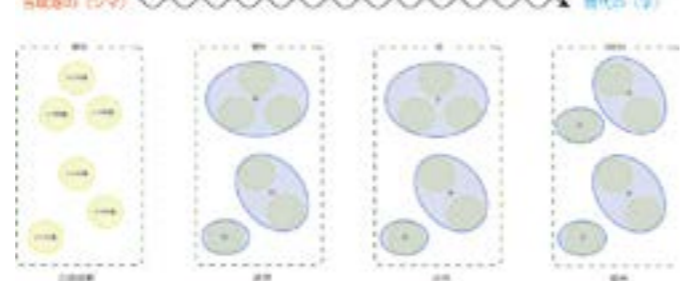


図2 古琉球のシマと現在の字の空間的連続性ダイアグラム

第2章 『おもろさうし』の特性と本研究の範疇

第2章では、『おもろさうし』の基礎的情報を整理し、編纂の過程を明らかにする。『おもろさうし』の成立時期に関する既往研究を整理し、『おもろさうし』にみられる地名を現在地に比定する行為は古琉球期の社会と現代の社会の空間的な連続性をみることでであると定義した。さらに、『おもろさうし』にみられる地名についての既往研究を通して、『おもろさうし』にみられる地名は、歌謡集という性質上、断片的ではあるが、ある程度の地理的意識に基づいて編纂されており、沖縄本島の地名が万遍なくみられるという点を明らかにした。

第3章 古琉球と結び付けられる現在地の抽出

第3章では、『角川地名大辞典』に記載されている『おもろさうし』にみえる地名のリスト作成、類型化をおこない、古琉球期から存続してきたと考えられる集落地域の抽出を行った。抽出のプロセスとして、『角川地名大辞典』に記載された『おもろさうし』にみえる地名を全てリスト化し、地名に関する記述に基づいた分類を行った。第一段階として、地名の意味による分類を行い、村落名を表す地名を抽出した。第二段階として、抽出した村落名の現在地比定に関する記述に着目し、比定の精度による分類を行った。分類の結果から、字領域、町・複数字領域に分類される地域を古琉球期から存続してきたと考えられる集落地域とし、抽出・プロットによる可視化をおこなった。



図3 『角川地名大辞典』における『おもろさうし』記載地名の抽出の流れ



図4 抽出した集落地域のプロット地図

第4章 古琉球から存続してきた村落の立地傾向

第4章では、第3章で抽出した古琉球期から存続してきたと考えられる集落地域を可視化したプロット地図と地質図との照合を行い、古琉球期から存続してきたと考えられる集落地域の立地傾向に関する分析を行った。地質と集落立地の関係を分析するに当たり、沖縄本島を地質の傾向から3つの地域に区分した。これらの分析の結果、地域ごとに地質の違いは見られたが、基本的に古琉球期から存続してきたと考えられる集落地域は、時代の異なる地質の境界部に位置している事が確認できた。また、今後の展開として、古琉球期から存続する集落地域と近世以降に新設された地域の立地条件の違いが見られる可能性について述べた。

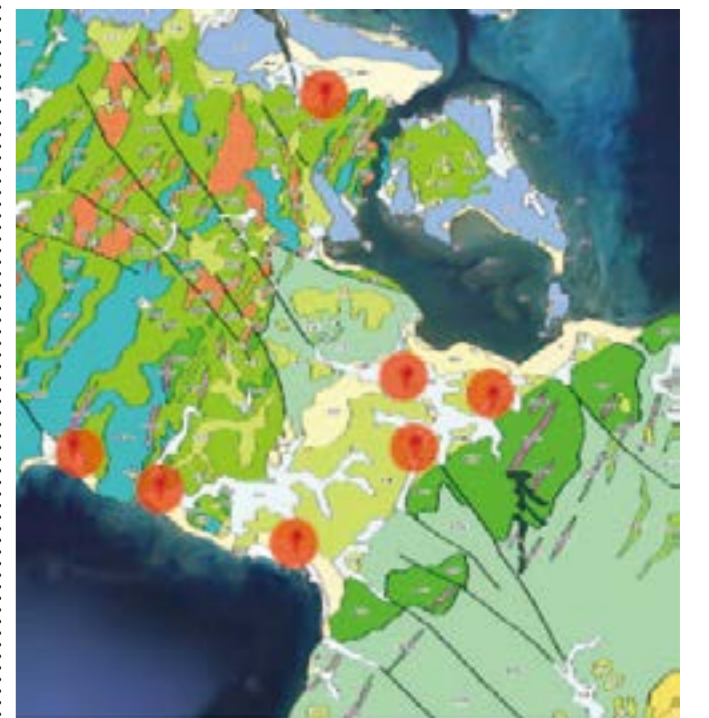


図5 抽出した集落地域と地質図の照合図

第5章 結論

本研究により、地名を用いた古代社会を現在の社会の中に捉える手法を用いて、沖縄という地域においても『おもろさうし』という文献資料により古くから存続してきた集落地域が抽出できることが示されると共に、抽出結果をふまえた分析の結果、それら集落地域に立地の傾向がみられることが明らかになった。

注釈・図版出典

【注釈】
 1 庄子幸佑『地名からみた現代日本に於ける古代社会の影響に関する研究』(中谷研究室蔵、2013)
 2 古琉球期：沖縄が島津藩の侵入を受ける1609年以前を指す
 【図版出典】
 図1 筆者作成、図2 筆者作成、図3 筆者作成、図4 Google Earthより引用、図5 Google Earthより引用、地質図データは産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)(2015)20万分の1日本シームレス地質図2015年5月29日版、産業技術総合研究所地質調査総合センターから引用(筆者加筆)

【序論】

研究背景

研究目的

研究方法

既往研究

- ・古代地名の現在地比定に関する既往研究
- ・『おもろさうし』にみられる地名に関する既往研究

基礎事項の整理

- ・沖縄に於ける時代区分の定義
- ・沖縄における地名用語

本研究の位置付け

【本論】

1章 地名研究から見る古琉球社会と現代の社会の空間的な連続性

1-1 はじめに

1-2 各時代における地名の特徴と社会背景

1-2-1 古琉球

1-2-2 近世

1-2-3 近代

1-2-4 現代

1-3 現代の字と古琉球の村落

1-4 本章のまとめ

2章 『おもろさうし』の特性と本研究の範疇

2-1 はじめに

2-2 『おもろさうし』の概要

2-3 地名資料としての『おもろさうし』

2-4 『おもろさうし』にみられる地名の既往研究

2-5 編纂の過程からみる地名の成立時期

2-6 本章のまとめ

3章 古琉球と結び付けられる現在地の抽出

3-1 はじめに

3-2 『角川地名大辞典 沖縄』における『おもろさうし』

記載地名の抽出

3-2-1 地名の抽出方法

3-2-2 地名の意味による分類

3-2-3 村落地名の比定精度の分析

3-3 地名の意味による分類からみた一考察

3-4 本章のまとめ

4章 古琉球から存続してきた村落の立地傾向

4-1 はじめに

4-2 地質図との照合による分析

4-2-1 北部域

4-2-2 中部域

4-2-3 南部域

4-3 小結

5章 結論

あとがき

謝辞

参考文献

図版出典

巻末資料